

春告草

第165号 令和2年1月8日 進路指導部発行

Kites rise highest against the wind , not with it.

明けましておめでとうございます。

正月の晴れ渡った空には風が似合います。子どもが小さかった頃は、多摩川の土手で凧揚げをよくやりました。青空高く上がった凧からは糸を通して風のパワーを手に強く感じる事ができたことを覚えています。

表題の言葉は春告草にも何度か掲載した言葉ですが、イギリス元首相のウィンストン・チャーチル氏によるものです。意味はお分かりですね。「風が一番高く上がるのは、風に向かっていている時である。風に流されている時ではない。」 苦しい時こそ、チャンス！と受け止めて努力を重ねましょう。

6年生はいよいよ入試が始まります。長かった受験生活もようやくゴールが見える位置に差しかかりました。調子の良かった時ばかりではなかったと思いますが、これからがいよいよ皆さんの力が試される時です。結果がなかなか出ず、弱音を吐きたくなくなる時が来るかも知れませんが、どうか目標を見失うことなく、向かい風には悠然と立ち向かっていってください。

Keep your eyes on the stars , and your feet on the ground.

これはアメリカ合衆国ルーズベルト大統領の言葉。「目を星に向け、足は地につけよ」ですが、「目標を見据えて、どんなことがあっても慌てることなく、できることを頑張ろう！」と意識して、受験生へのメッセージとします。進路実現に向け、さらに力を遺憾なく発揮し、みごと志望校に合格されることを祈ります。

5年生は年末に「勉強合宿」を行いました。講義、自習を合わせて20時間を超える学習を行いました。「高30学期」を迎える基礎学力、基礎体力はつきましたか。昔は3月3日、4日が国立大一期校の入試日でしたが、9月から始まる総合選抜(旧AO入試)、年明け早々の共通テスト、2月下旬の国公立大前期試験など、入試日程は昔に比べて早まっています。「先手必勝」という言葉があり、受験勉強は早くスタートさせるに越したことはありませんが、樹木も雨風を受け陽にあたってこそ、根っこが強く広がり、大きな木に育ち、そして中身のびっしり詰まった実を付けることができます。決して短期促成栽培に走らないよう、地に足をつけて踏ん張っていきましょう。

4年生は進路探究の一方、部活動、行事などでは、本校の中核として活躍しなければいけない時期を迎えます。視野を広げて周りを見渡すとともに、常に自分の進路目標を見失わずに日々努力する姿勢を崩さないようにしてください。「文武両道」ということになりませんが、簡単に実現できないことは皆さんが十分に承知していることと思います。勉強にしても、部活にしても、行事にしても自分が何を今やらなければいけないのかを明確にして、できることを頑張りましょう。

新テスト「大学入学共通テスト」は制度の最終決定まで紆余曲折していますが、これまでのセンター試験に比べて、「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」がより一層求められていることに変わりはありません。知識の詰め込みだけではなく、知恵を働かせて、日々精進しましょう。

チャーチルは次の言葉も残しています。

Never , never , never , never give up.

決して屈するな。決して、決して、決して！

「飛躍する予感。」が感じられる1年を一人一人が送ってくれることを願っています。

センター試験まで10日
Keep your eyes on the stars ,
and your feet on the ground.

頑張れ五期生！

3学期の行事日程



3学期が始まりました。6年生はいよいよ来週末にセンター試験ですが、通常授業は来週15日で終わり、16日以降は特別指導期間に入ります。

センター試験後は20日に登校して自己採点を行います。個人成績票の配付は24日です。これは国公立大出願に向けての貴重な資料となりますので、データリサーチには必ず参加してください。

特別指導期間中は、志望大学別対策講座が開かれますが、日程などは担当の先生の指示に従ってください。登校して自習室などでの学習は差し支えありませんが、2月上旬には新入生適性検査の関係で登校禁止期間が設けられています。

5年生は1月19日にチャレンジセンター（外部会場）があります。来年度の共通テストは1月16日、17日に行われますので、あと366日と八日です。積極的にチャレンジしていきましょう。

新テストは国語・数学の記述問題、英語の外部試験の導入見送りで、入試改革が頓挫した感がありますが、新しい学力観に基づいた「新傾向」問題が出題されることに変更はありません。

1月21日には4年生、5年生対象に記述模試があり、5年生は22日にも行います。5教科受験のための日程を設定していますが、地歴・公民、理科は早く着手することが大切です。5年生は2月にもマーク模試を計画しています。

※1月31日は短縮授業の後、適性検査の会場準備を行います。この日は駐輪場の整理も行いますので、6年生はこの日までに場所を空けておいてください。

	6 学年	5 学年	4 学年
1/8	始業式、宿題テスト（4年、5年）		
9			
10			
11			
12			
13	成人の日		
14			
15	通常授業最終日		
16	特別指導期間（～3/5）		
17			
18	センター試験①		
19	センター試験②	チャレンジセンター	
20	データリサーチ（自己採点）		
21		1月模試（記述）	1月模試（記述）
22		1月模試（記述）	
23			
24	データリサーチ結果票配付		
25			
26			
27	国公立大個別試験 出願（～2/5） 前期・中期・後期		
28			
29			
30			
31	登校禁止（13時以降）	午前授業・午後会場準備	
2/1	私大入試は1月末からスタートし、2月上旬から中旬にかけて実施される。国公立大前期日程試験までには一段落するが、一部の私大では追加募集や後期募集が3月にも実施される。	敷地内立入禁止	
2		敷地内立入禁止	
3		新入生適性検査実施（登校禁止）	
4		適性検査採点	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	建国記念の日		
12		2月模試（マーク）	
13		2月模試（マーク）	
...
19	登校日（13:20）	受験講演会	
20			
21			
22			セカンドステージ論文発表会
23	天皇誕生日		
24	振替休日		
25	国公立大前期試験開始		
26			
27			
28			
29			
3/1	期 末 試 験（3/1～6）		
2		学年末考査	学年末考査
3		学年末考査	学年末考査
4		学年末考査	学年末考査
5	登校日（11:00）	学年末考査	学年末考査
6	卒業式準備・予行		
7	卒業式		
8	公立大中期試験開始		
9			
10			芸術鑑賞教室
12	国公立大後期試験開始		
14		基礎学力テスト	基礎学力テスト



受験レースを最後まで走り抜ける!

6年生はいよいよ大学入試シーズンを迎える。来週はセンター試験、1月下旬からは私立大入試もスタートする。国公立大後期試験受験までを視野に入れば、2ヶ月の長丁場。寒さが本格化するこれからは体調維持も大切だ。これまでの努力が実るよう、健康管理にも注意しよう。

何と言っても6年ぶりの「受験」。そして競う相手は全国の受験生。中学受験とは、規模もレベルも大違いだ。試験場では、自分以外のみんなが賢そうに見えるかも知れない。けれどもハートを強くキープし、ハードル一つ一つを跳び越えていこう。現役生はこれからも伸びる。しばらく心身共に疲れる期間が続くが、桜咲くキャンパスを颯爽と歩く自分の姿を想像し、力を十二分に発揮されんことを祈る。



Walk with your head held high! 上を向いて歩こう!

試験場に続く道を歩くとき、門をくぐるとき、教室に入るとき、席につくとき、下を向いてはいけな

自信を見せる、なくても見せる。受験の神様はいつだって、上を向いて歩いているヤツに微笑むんだ!

「ガンバレ! 鷹校生」「ガンバレ! 5期生」

直前ではあるが、センター受験に関連して大切なポイントをいくつか指摘しておく。

■試験当日までの生活や心構えなど

① 生活リズムを朝型に切り替えるべし

センター試験の開始時刻は9時30分。早寝、早起きなど生活リズムを整え、朝から脳をフル回転させよう。寝不足や寝坊では、良いパフォーマンスは望めない。

② 試験当日の過ごし方を考えておくべし

センター試験当日は、試験開始までの待ち時間の過ごし方も大切なポイント。特に初日、リスニングまでの長丁場は、糖分を補給するなど、途中でエネルギー不足にならないよう対策を考えておく。

③ 「受験大学メモ」や「持ち物チェックリスト」を活用して準備を整えるべし

試験会場までの交通手段を調べる、携行品のリストを作るなど、前日に慌てることのないよう準備しておく。

④ 体調を管理すべし

無理をせず、睡眠時間はしっかりとる。当日を元気に迎えられることが何よりも大切である。

■手続きなど

① 私大センター利用入試はセンター前に出願

一部例外もあるが私大センター利用入試はセンター試験受験前出願が主流。まだ出願していなければ大至急手続きをせよ。受験前出願締め切りは多くの大学が17日(金)である。

② センター試験後は自己採点に必ず参加

1月20日(月)はデータリサーチ(自己採点)を行う。登校は通常通り。個人成績票は24日(金)に配付する。

③ 国公立大は前期・中期・後期の全日程とも同時期に出願

全日程(前期日程、後期日程、公立大中期日程)とも出願期間は1月27日(月)から2月5日(水)まで。※センター試験受験案内最後のページも参照せよ。

④ 調査書の追加発行

追加出願は調査書提出不要のところがある一方、再度の提出が必要な大学もある。各大学の募集要項をよく読み、間違いのないように手続きをする。追加発行の必要があれば、発行申請書を各担任に提出する。事前に電話連絡があると有難い。ただし、適性検査関係の作業で以下の期間は調査書の発行ができない(取扱不可期間) 土曜日曜祝祭日の他、1月31日~2月6日)。尚、追加発行の調査書は、原則本人が経営企画室の窓口で直接受領する。(本人確認のため、受領時には生徒証を提示する必要がある。)



Web 出願は1月から各大学で受付が始まった。個人データの登録など、学部・学科・入試方式の選択画面に進む前に行う手続きは多い。気持ちにも日程にもゆとりのあるうちに手続きは済ませよう(画像は早稲田大学の Web 出願画面)

大学入試ガイド(1)

Road to University

「高3・0学期」を迎えた5年生はもちろん4年生にも向けて、新たに大学入試ガイドの連載を開始します。

第1回目は大学入試のアウトライン解説です。

大学入試は、一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜の3つ(※)に大きく分けることができ、それぞれ選抜方法が異なる。なかでも一般選抜は募集人員が最も多く、入試の中心的役割を担っている。その基礎知識から解説していこう。

※2021年度入試より、これまでの一般入試、AO入試、推薦入試がそれぞれ、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜に名称変更されます。

国公立大&私立大の一般選抜

●「出願期間」のタイムスケジュール

国公立大の一般選抜は原則として、大学入学共通テストと各大学が行う個別試験(※)の総合成績で合否が決まる。そのため国公立大の一般選抜を受験するには、共通テストに出願しなければならない。現役生の出願は在籍校経由で行うことになっていて、9月上旬に志願票を配付し、回収、取りまとめの後、下旬に一括して出願する。個別試験への出願は共通テスト受験後、1月下旬に個人で行う。

私立大の一般選抜は、大学や入試方式によって出願期間が異なるが、1月上旬から下旬にかけて設定している場合が多い。私立大の共通テスト利用選抜を受験する場合は、国公立大と同じように共通テストに出願しなければいけない。

Web出願を採用する大学が国公立大を問わず増加中で、この場合はインターネット経由で出願する。

※国公立大学が行う独自試験を二次試験ということもあるが、正式には「個別試験」である。2段階選抜を行う大学を除き、共通テストに一次試験という意味合いはない。

●「入学試験日」の設定

共通テストの実施日は、「1月13日以降の最初の土曜日及び翌日の日曜日」と文部科学省が指定している。5年生が受験する最初の共通テストは1月16日、17日に実施されることが大学入試センターより発表されている。

国公立大の個別試験は、前期日程試験が2月25日から、後期日程試験が3月12日以降に行われる。公立大の一部では中期日程試験を3月8日以降に実施するところもある。

私立大の一般選抜の入試日は各大学・学部により異なる。1月下旬から2月下旬ころにかけてピークがあり、3月下旬にはほぼ終了する。

●大学入学共通テストの出題教科・科目

共通テストには、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語の全6教科に30の科目が用意されている(春告草138号参照)。特に理科は基礎を付した科目(基礎科目)と基礎を付していない科目(発展科目)に分かれ、科目選択方法が複雑なので注意を要する(同154号参照)。「地理歴史、公民」または「理科の発展科目」から2科目選択する場合、解答する順番に「第1解答科目」、「第2解答科目」という。第1・第2解答科目の成績利用方法は大学により異なる。

地理歴史、公民、理科(発展科目)の各教科内で、指定された科目間で20点以上の平均点差が生じ、これが試験問題の難易差によると認められる場合には得点調整が行われる(受験者数が1万人未満の科目は除外)。

●国公立大「個別試験」の特徴

国立大の受験機会は前期日程と後期日程の2回あり、公立大の中期日程・別日程を含めればチャンスはさらに広がる。募集人員は前期が圧倒的に多く、国公立大一般選抜全体の約8割を占める。

前期日程では記述式による教科試験が中心で、1~3教科を課す学部・学科が多い。

後期日程では小論文、総合問題、実技、面接などで受験生の資質を判断するケースが見受けられるが、近年は個別試験を「課さない」から「課す」への変更、科目数の増加、個別試験配点比率のアップ、小論文を学科試験に切り替えるなど、基礎学力重視の傾向がある。

●私立大「一般選抜」の特徴

国公立大とは違い、日程が重複しなければ何校でも受験できる。一般選抜は「大学独自選抜(独自方式、単に一般入試とも)」「共通テスト利用選抜」「共通テスト・独自併用方式」の3種類に大きく分けられる。独自方式は2~3教科入試が基本。共通テスト利用選抜は私立大の約9割が利用している。同じ大学において同一の学部・学科で複数の選抜を行う「複線入試」や、複数の学部・学科を同一日に行う「全学部入試」などの方式もある。